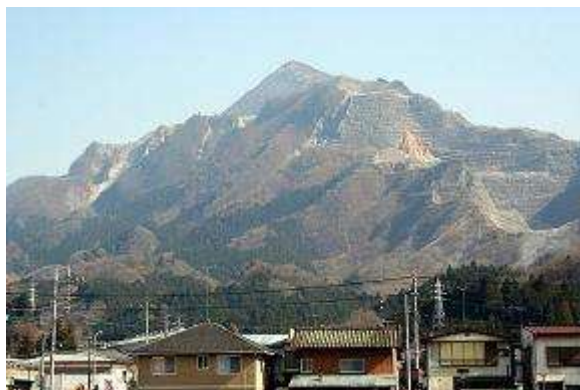


どんぐり山行通信 武甲山

第51号 2010年3月20日(土)
晴れ
参加者 21名
ぶこうさん(1341-46+9)m



今月は鶴ヶ島からもみえる武甲山。予定より早く石灰工場に到着し歩き始める。間もなく御嶽神社の一の鳥居につく。ここから参道が頂上まで続く。道端に丁目石が順を追って現れる。何丁目まであるのか？道は杉の木立におおわれ、下には生川が流れてひんやりとした参道の気配だ。展望はない。

大杉の広場には巨大な杉が立ちはだかり、仰ぎ見ると枝が大きな手を広げて天をさえぎっている。温まってきて上着を脱いで

も背中汗ばんでくる。700mの高低差を登ると、御嶽神社が現れる。ここは52丁目だ。展望台に登ると春霞にけむる秩父の街がみえる。遠く西方には昨秋登った両神山が霞んで見える。石灰の採掘で頂上は46mも削られたそうだ。眼下には採掘の重機やトラックが小さく見える。温かい日差しのもとでのんびりと昼食をとる。



1時間の休憩後、浦山口に向けて出発。今度は檜の間の急勾配を下る。やはり見晴らしはなく単調だ。間もなく橋立川のせせらぎが聞こえてくると一転して見晴らしのよい明るい景色に変わる。滝が落ちる溪流を眺めながら河原でしばらく休憩をとる。今日はタフな女性隊員が軟弱な男性隊員を慮ってしばしば休憩をとってくれる。そんな温かい思いやりがいじけてささくれだった俺の心を優しく包み込んでくれる。目頭が熱くなる。

5時間余りの歩行で絶壁の屹立する足下の秩父28番札所橋立堂に到着する。石段を登るとこじんまりした堂がたたずんでいる。すぐ隣は鍾乳洞だ。人間がせっかちに石灰岩を削って巨大なモニュメントを造ったのに対して、自然は長い時間をかけて石灰岩に穴をうがち鍾乳洞というオブジェを造り上げる。鍾乳洞を見物したつもりで入口を通り過ぎる。帰りのバスから武甲山の北面の採掘跡が幾何学模様のように見える。まだ陽の高いうち、299号線を鶴ヶ島に向かう。明日は春分だ。なお、中庭さんが先月退会されましたのでお知らせいたします。(伴記)

